

資料4

第7回内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム(名古屋)での 課題について

環境省環境安全課

I 運営について

1. 開催日程について

一般向けプログラムが平日開催となっており、一般の方が参加しにくい日程となっていた。今後は一般向けプログラムの休日開催について検討が必要である。

2. アブストラクト集の配布について

アブストラクト集（今年度は専門家向けセッションの要旨のみ掲載）を、初日の一般向けプログラム開始時から配布してほしいとの要望が非常に多かった。

II プログラムについて

1. 開会挨拶について

開会挨拶が5名30分程度となり、長いとの指摘を受けた。

2. 特別講演

特別講演だけを聞いて帰る参加者が目立った。引き続き参加いただき、本問題への理解を深めるようなプログラム全体の構成の検討が必要である。

3. 取組の現状

これまで毎年、一般向けプログラムに含めていたが、型通りとの印象が強い。取り上げ方や発表の仕方等について今後検討が必要である。

4. パネルディスカッション

会場からの意見をもっと取り上げるべきとのご意見が多かった。

5. 各セッションの時間

一般向け、専門家向けの各セッションのとも、発表時間が長く、議論を行いまた討論する時間が少なすぎる。限られた時間設定中で多くの演題が集中しないよう、1セッションあたりの発表者数を減らす等検討が必要である。

6. 各セッションの発表者の人選

多方面から発表者を選定し、様々な立場からの意見を発表できるようにしてほしいとの意見があった。

資料5

第8回 化学物質の内分泌かく乱作用に関する国際シンポジウム（沖縄） （案）

環境省環境安全課

1. 目的

化学物質の内分泌かく乱作用に関する環境省の今後の対応方針について（-ExTEND 2005-）では、「情報提供とリスクコミュニケーション等の推進」を今後の具体的方針の一つとし、信頼性の高い最新の研究情報等について積極的に国民に情報提供し続けることが重要な視点となっている。

（1）情報提供・共有

主として国民、また国内外の専門家に対する、わかりやすい情報提供と理解の促進を目的とする。

（2）情報交換・意見交換

内分泌かく乱作用の研究は国際的な協力が必要であるとの認識から、専門家向けプログラムは主として国内外の専門家、また国民に国際的な情報交換の場とすることを目的とする。

2. 方針

《一般向けプログラム》

- （1）わかりやすく情報を提供し、理解を促進することに主眼を置く。
- （2）その際、情報が適切に伝わったかどうかアンケート等のフィードバックにより、理解の程度等を把握しながら情報提供のあり方の改善に努める。
- （3）内容はわかりやすい形で記録しホームページ上で公開する等、誰でも閲覧できるようにする。

《専門家向けプログラム》

- （1）様々な研究、技術的情報、科学的知見について最新の情報を提供する。
- （2）国内外の専門家による意見交換を行う。

3. プログラム第1次案

【一般向けプログラム】

12月4日(日)：沖縄ハーバービューホテル

- ・開会式
- ・一般向けパネルディスカッション「(仮題)人畜由来のホルモンはどうなっているのか」
司会 北野大氏(淑徳大学)

【専門家向けプログラム】

* 専門家向けセッション：

各セッション3 演者 発表30分+質疑10分 総合質疑・指定発言15分

* パネル展示：環境省(ExTEND2005について)、沖縄県、産業界等

12月5日(月)・12月6日(火)：沖縄コンベンションセンター

- ・セッション1 (仮題) ゲノミクスは個体レベルへどうつながるか
コーディネーター 渡邊肇先生(自然科学研究機構)
- ・セッション2 (仮題) 内分泌かく乱作用に関する試験法はどこまで開発されているか
コーディネーター 井口泰泉先生(自然科学研究機構)
- ・セッション3 (仮題) 化学物質のリスク評価はどのように進められているか
コーディネーター 白石寛明先生(国立環境研究所化学物質環境リスク研究センター)
- ・セッション4 (仮題) 野生生物の観察の実際と課題
コーディネーター 花里孝幸先生(信州大学)
- ・セッション5 (仮題) 内分泌かく乱作用に関連する疫学的研究のあり方
コーディネーター 遠山千春先生(東京大学)
- ・セッション6 (仮題) 未定
コーディネーター 未定

【スタディビジット】

12月4日(日)または7日(水)：

“沖縄美ら海水族館”または、“環境省やんばる野生生物保護センター及びやんばるの森”

【関連行事】

12月3日(土)：日英共同研究ワークショップ：沖縄コンベンションセンター

(お知らせ)

「第8回内分泌かく乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」の開催について(第1報)

平成17年 3月 8日(火)
環境省環境保健部環境安全課
課長 上家 和子 (内 6350)
専門官 佐々木 健 (内 6352)
係長 入江 芙美 (内 6352)
担当 榮田 智志 (内 6354)

(概要)

本年12月4日(日)から7日(水)に、沖縄ハーバービューホテル(沖縄県那覇市)及び沖縄コンベンションセンター(沖縄県宜野湾市)において「第8回内分泌かく乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」を開催します。

(1) 開催日時

平成17年12月4日(日)～7日(水)

(2) 開催場所

12月4日(日) 沖縄ハーバービューホテル (沖縄県那覇市)

12月5日(月)～7日(水) 沖縄コンベンションセンター(沖縄県宜野湾市)

(3) 主催：環境省

後援(予定)：沖縄県、沖縄県教育委員会、那覇市、宜野湾市

(4) 開催目的(案)：

- ・ 我が国を始めとする、世界各国の内分泌かく乱化学物質問題への取組状況について、情報を共有する。
- ・ 国際的な連携・協調により進めている内分泌かく乱化学物質問題の研究の方向性について議論する。
- ・ 身近な問題であると同時に、地球規模の問題でもある化学物質への対応について、各方面の関係者により多面的な意見交換を行う

(5) プログラム(案)：

12月4日(日) : 開会式及び一般向けパネルディスカッション

12月5日(月)～7日(水)：専門家向けセッション(5日及び6日)

及び沖縄本島内の関連施設の視察

「内分泌攪乱化学物質問題に関する国際シンポジウム」

プログラム検討会委員名簿

青山 博昭	(財) 残留農薬研究所毒性部副部長 兼 生殖毒性研究室長
有蘭 幸司	熊本県立大学 環境共生学部教授
井口 泰泉	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 岡崎統合バイオサイエンスセンター教授
伊藤 尚史	旭化成ケミカルズ(株)RC・コンプライアンス室主幹研究員
井上 達	国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター長
岩本 晃明	聖マリアンナ医科大学 医学部教授
奥野 泰由	住友化学工業 (株) 生物環境科学研究所
菅野 純	国立医薬品食品衛生研究所 安全性生物試験研究センター毒性部長
○鈴木 継美	東京大学名誉教授
遠山 千春	東京大学医学部附属疾患生命工学センター
長濱 嘉孝	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 基礎生物学研究所 生殖研究部門教授
名和田 新	九州大学大学院 医学研究院教授
森 千里	千葉大学大学院 医学研究院教授
森田 昌敏	(独) 国立環境研究所 統括研究官
安野 正之	滋賀県立大学 環境科学部教授
横田 弘文	(財) 化学物質評価研究機構 安全性評価技術研究所
若松 佑子	名古屋大学 生物機能開発利用研究センター教授

○：座長 敬称略、五十音順